

★ 特集：木造住宅の耐久性・耐震安全性を高めるモルタル外壁 ★

インタビュー

切れ目のない工程を示し、 ラスモルタル外壁の品質と性能を確保する

早稲田大学理工学術院 興石 直幸 教授に聞く

乾式工法では材料や工法が標準化され、マニュアル化が進んでいる。一方で湿式工法のラスモルタル外壁工事は、日本建築学会の建築工事標準仕様書JASSでは、工種ごとにそれぞれが分冊になっており、切れ目のない連続した工程として捉えた標準仕様書がない。

本稿では、下地からモルタル施工に至るまでの工程を通して示した『木造住宅ラスモルタル外壁の耐久設計・施工指針』の主査を務めた早稲田大学理工学術院の興石直幸教授に、このほど発行された同指針の主旨と目的、今後の展望などについてお話を伺った。（編集部）



▲「木造住宅ラスモルタル外壁工事では、工種ごとに正しい施工を行い、つぎの作業者へ引き継ぐということが最も重要なことです」と語る興石教授

標準仕様書の隙間を埋める新たな指針

— 今回の指針の目的と、どのような方々に使用して頂きたいですか

指針の目的は「ラスモルタル外壁における設計・施工の基本的な指標を示す」ということです。その適用範囲は3階建までの木造住宅の外壁工事で、開口部回りやバルコニーを含めた工事を想定しています。一部の内容は、長屋建てや店舗を併用した木造住宅などにも適用できます。また、適用部位は、ラス系下地に普通モルタルもしくは軽量モルタルを塗り付けた外壁であり、屋根や軒天井、床、室内と天井は対象外です。建築工事標準仕様書のスタイルで書かれた後半部分は、外壁に通気層を設けた構法に限定しており、直張り構法は対象としていません。柱・横架材などの構造体を施工した後の工程を対象としています。

当然、設計・施工指針ですからラスモルタルに関わる建築家や設計士、工務店、職人などの皆さんに使っていただきたいのですが、そのほかにも普段はサイディングなど乾式工法を専門に設計や施工をされている方々にもラスモルタルの良

木造住宅ラスモルタル外壁の 耐久設計・施工指針(案)・同解説

Recommendation for Durability Design and Construction Practice for Mortar Finish on metal lathing applying to External wall of Wooden Houses

日本建築学会

▲木造住宅ラスモルタル外壁の耐久設計・施工指針(案)同解説